2017年2月22日

長野大学研究交流広場

現代中国語における待遇表現研究の位置づけと現状

報告者　環境ツーリズム学部　宮本大輔

本報告では、報告者が行ってきたこれまでの研究の位置づけと現状について概観する。

報告者は、近年現代中国語における待遇表現という研究課題に取り組んでいる。待遇表現は、広義の敬語に含まれるもので、言語表現を行うに当たって、表現主体が、自分自身・表現の相手・話題の人物のそれぞれの間に、上下親疎などのような関係があるかを認定し、それを表現形式の上に反映させることである。

中華人民共和国成立以前の中国では、多種多様な敬語が用いられていた。だが、社会制度の変化に伴い、大部分の敬語が失われ、現在では体系的な敬語は存在しないと言われている。現代中国語では「礼貌」と呼ばれる要素が待遇表現にあたり、主に呼称表現、人称表現、一部の敬語語彙、婉曲表現と間接発話表現における丁寧さの調節機能に反映されるとされている。

報告者は、自身の中国語使用経験や中国の小説を読んだり、ドラマを見た経験に照らした直観、母語話者への聞き取りから、現代中国語には上記とは別の待遇表現があると考えるようになった。そこで、報告者は2012年から2015年、中国のテレビドラマをコーパスとし、現代中国語における待遇表現の研究を行ってきた。報告者がこれまでに取り組んだのは、以下の2つである。

(1)語気助詞の使用傾向に関する研究、

(2)諾否疑問文（S＋V＋O＋“吗ma”？、S＋Adj＋“吗ma” ？のように平叙文の文末に疑問を表す助詞“吗ma”を加えた構造を持つ疑問文）と反復疑問文（S＋V＋否定副詞“不bù”＋V＋O？、S＋Adj＋否定副詞“不bù”＋Adj？のように述語部分の肯定と否定を組み合わせた構造を持つ疑問文）の使用傾向に関する研究